

## 利用上の注意

(必ずお読みください)

本情報は、公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成により、平成27～29年度に乳用牛群検定全国協議会が行った「酪農における子牛生産情報システム構築事業」において構築されたシステムに基づいたものです。乳用牛群検定を活用して、以下の情報を提供します。

### 1 子牛の生産予測情報

#### ・乳用種（※）雌、乳用種雄、交雑種の生産予測頭数

乳用牛群検定における授精報告を利用し、乳用種雌、乳用種雄、交雑種のそれぞれの頭数を生産予測しています。毎月20日以降に1カ月前に遡って9カ月前まで予測します（例：4月23日予測の場合、3月から11月を予測）。予測開始月以降の予測値（赤い細線）は、毎月新しい予測値に再計算されますが、予測開始月以前については、最終予測（赤い太線）として変動することはありません。参考値として、先月の予測値（赤い点線）を表示しています。予測精度を示すために、独立行政法人家畜改良センターから公表される牛個体識別番号に基づく出生報告の値を実績（黒い点線）として、表示しています。これは年に1回（10月）に、前年度（3月）までの実績が公表されています。

なお、予測開始月以降の赤い細線の予測値は平均5%程度の誤差を含みます。また、予測プログラムの性質として、傾向が急変するような震災や新技術の急激な普及などの事態が発生すると予測精度が低減します。

#### （※）乳用種

ホルスタイン種、ジャージー種およびその他の乳用種の合計

#### ・交雑種生産率の予測情報

前述までの予測値を以下の計算式により交雑種生産比率としました。赤い太線と細線、および黒い点線は前述に準じます。

交雑種生産比率 = (交雑種生産予測頭数) ÷ (乳用雌および乳用雄生産予測頭数 + 交雑種生産予測頭数)

#### ・乳用牛による黒毛和種（E T）生産予測情報

乳用牛群検定におけるE T報告および分娩報告をもとに、乳用牛による黒毛和種を生産を予測しています。棒グラフは牛群検定における黒毛和種生産頭数の実績です。赤い細線と太線は前述と同様です。

ただし、特殊な繁殖技術であるためデータ区分上予測精度を検証することが出来ないため参考値として利用してください。

#### ・分娩により新たに搾乳牛となる予測頭数情報

経産、未経産を問わずに分娩により新たに搾乳牛となる頭数予測です。死産や子牛の早期死亡等も含めて計算している関係から、データ区分上予測精度を検証することが出来ないため参考値として利用してください。

### 2 分娩状況

いずれの情報も乳用牛群検定に基づく情報です。注意点は次の通りです。

- ・性比：牛群検定での報告に基づくものです。
- ・死産：産子が死亡していたもの、子牛が死亡の状態で娩出されたかどうかは問いません。

- ・早産：妊娠期間が180～270日のもの
- ・流産：妊娠期間が180日未満のもの
- ・推定新生子牛早期死亡：耳標を装着以前の出生後1週間以内で死亡したと推定されるもの

### 3 自家生産牛の比率

乳用牛群検定に参加している経産牛が、自牛群で出生した場合を自家生産としています。例えば、出生した後に育成牧場等に預託された場合であっても、出生した農家に戻されれば、自家生産として計算しています。